

赤羽別院報 第6号

発行所

真宗大谷派 赤羽別院 親宣寺

発行人 野々山 洪美

愛知県幡豆郡一色町赤羽上郷中14

Tel. Fax (0563)72-2308

印刷/佛教育広報センター

掲示板

役に立つ
人だけが
尊いのでは
ない

西尾市了願寺掲示板より



シリーズ

人間模様

6

一色町 都築ふさ子

家庭奉仕員(現ホームヘルパー)として二十二年間にわたり老人介護に尽くされた都築さんは、訪問先での仏法談義にも力を注がれた。冊子『よび声』を愛読し、「仏法さまの声が、私の口から出て下さる。私の声じゃない。」と仏法大事の生き方などを語っていた。

都築 三十年前、家庭奉仕員のお役目を頂いた頃は、寝たきりの人ばかりでした。枕元で家族の愚痴を話される方に接した時、私なりに仏法さまを伝える方法はないものかと思ひましてね。そこで『よび声』を持って訪問されたわけですか。



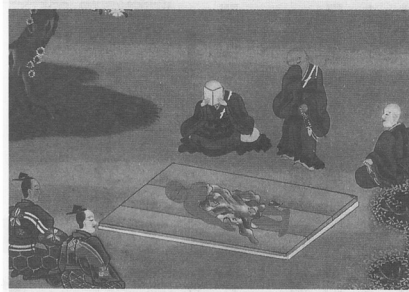
も仏法さまの声を届けたかったです。始められていかがでしたか。都築 世間話を交えながら、気負うことなくお話をさせてもらいました。ご家族、ご近所の方も聞いて下さり、やがて私の家が法談の場になりました。うれしかったですね。本当にやりがいのあるお役目でした。これも仏法さまのおかげですね。ところで遺体を献体する会へ登録されているそうですが。都築 「不老会」と言っていて、医学研究のためにこの身を献げる会ですね。私も多くのご縁を頂き、お念仏と共に生かされてもらっていますが、娑婆の縁尽きた時、何が残せるか考えていました。その頃、この会の精神を知り、「この身が役立つなら」との願いから入会しました。一入会についてはご家族の同意が必要ですね。都築 説得するのに二カ月かかりました。一部には売名、売体行為という非難の声もありますから、家族の気持ちもわかるん

です。でも、こころの遺産は分けても減ることはありませんよ。法義相続についてはどうお考えですか。都築 これは難しいですね。私の姿勢はにせものですから。本物なら伝染して、伝わるはずですが未だに伝わりません。(笑)お念仏を喜ぶ身であると思っていたのは私のうぬぼれかも知れませんが、いつも仏法さまを味わっていたかねばと思います。最近の法座について感じられ

蓮如絵伝を読む(6)

碧南 青木 馨

腹籠り血染めの聖教
文明六年三月二十八日、吉崎御坊南大門の多屋より出火、強風にあおられたちまち本坊を襲った。上人は奥で親鸞聖人真筆本を手本に『教行信証』を写しておられたが、お弟子が早々に避難を促すと、急いで行季の中へそれらを収め、その場を離れられた。



火はみるみる諸殿に回ったが、その時、ハツと上人の顔が青くなった。「写していた『証の巻』を机の上に置いたままじや!!」聖人の御真筆の一冊を蓮如の時に失ったとあっては末代迄の痛恨事!!自ら火の中へ取って返そうとされたその時、若い本光坊了願が「私が生命に代えても取って参ります」と告げるや、火の中へ飛び込んだ。奥の座敷の上人の机にたどり着くと、確かに『証の巻』が置かれたままだった。しかし時ず

赤色赤光

お金をかけないようにとの妙な同情が寄せられ、十七回忌を肉親のみで営むことになった。しかし、お経は短い方がよいとか、故人に関係のない世間話にふけるとか、お斎は僧侶抜きでグルメ賞味などと形骸化した年忌よりも、この方がよいのではと妙に納得した▼さかのぼって考えると葬儀も随分変わってしまった。死の床での看送り、そして湯棺、飾りの花、葬送、お非時などは全て身近な親戚、隣人の手によるものだった。葬式そのものも丁寧に行われた。夜を徹しての通夜、葬儀と灰葬は時と所を別にし、初七日は必ず七日目と手を抜かなかつた▼今では病院、葬儀屋さんがやってくれるので、私たちは手を出さなくて済むようになった。便利さを追う社会の動きは止められない。だが、慶弔だけでなく全てのことを原点に戻って心をこめてしないと人生そのものが、ただ通過するだけのものになってしまう。自分の手足を使う労力が人間を作ることもある。(門徒丁)

赤羽別院 秋季彼岸会法要

- 毎日午後1時30分から
- 9月20日(日) 三浦教照師
- 21日(月) 榑野明仁師
- 22日(火) 織田慶雄師
- 23日(水) 伊奈教雄師
- 24日(木) 小谷香示師
- 25日(金) 京極 修師
- 26日(土) 稲垣智研師



ウォッチング 得度式・帰敬式 クローズアップ



私たちが生きているという事は、同時に老病死の問題を抱え、矛盾や不条理なることに直面していくことでしよう。不安や怖れを感じ、空しさや寂しさを

そして言うに言えない憂鬱さを感じるのはそのためです。しかも混沌とした現代にあつては、

仏弟子として生きる

得度式・帰敬式を通して

ますます強く、そして大きくなっている。親鸞聖人は「何をもってか出世の大事なりと知ることを得るとならば」と、何が本当に大事なのかを

協しない性分です。反面、罪悪感が強かったんです。漠然と僧侶に憧れていたからです。得度した現在でも、その思いは変わりません。お勤めや聞法の機会が増え、罪は死ぬまで消えることはないとも、思い始めていま

ましたが、正直言つて、まだお坊さんのことがあまりわかりません。でも、これからいろんなことを教わつて、良いお坊さんになりたいらいいなと思つています。

帰敬式を終えて

岩瀬ひでさん(74)

一色町大塚

寺での報恩講やお彼岸のときにお勤めやお経をお父さんとちといっしょにするようになり

いっしょに帰敬式を受けた主人が、昨暮亡くなり、あらためて仏縁の深さを知りました。仏様に会わせてくれた主人の導きに感謝しています。この頃、素直な気持ちで御文さまが読めますし、なぜか穏やかに他人と接

にいらして道を学したもう」と、それが自分自身の問題であつたと知らされたとき、あてになるはずのお金や地位、名誉もあてにはならないよ、道を求めることこそ大事ですよと教えられた

のである。すでに道を明らかにされた人、目覚めた人(仏)に、その道を聞いていく(法)しか、苦悩や空しさを超えることはできない。多くの先輩はお念仏を通してこの道を探ねていかれた。私もその仲間に加わり(僧伽)、お念仏の教えを求めていこうとの名のりの場が帰敬式であり、髪を剃除して、法衣をまとつて、教えに身を委ねる姿をとるのが得度式である。(〇)



青山賢治さん(73)

西尾市米津町

お内仏で孫を後ろに座らせてお勤めをしています。毎日続ける中で、教えについても考えるようになり、ちよつと違つていたなあと反省することがよくあります。これからは法話を聞いたり、本などを読んで、お念仏の教えをもつと学んでいきたいと思つています。



「教えに学ぶ」とともに「ビハラの理念」も学んでいきたいと考えるがら病院を後にした。(報告 藤井・静)

寄稿 ビハラの病棟を訪ねて

第十組住職会と門徒会は二日間かけて新潟県の長岡西病院ビハラの病棟を訪ねた。

この病院には仏堂があり、僧侶が患者とともに朝晩、お勤めをしていた。そもそもビハラとは、休養の場所・僧院を意味し、仏教を振り所にしたターミナル・ケア施設のこと。すなわち病気の痛みを軽くし、その人らしく精一杯生き抜いていけるようにチームを組んで援助しているのである。

私たちが宗教者の一人として「教えに学ぶ」とともに「ビハラの理念」も学んでいきたいと考えるがら病院を後にした。(報告 藤井・静)

- 赤羽別院 人事
- 別院見習 13組慶徳寺 法輪哲
- 別院行事案内
- 毎月13日・28日 晨朝法話
- 8月7日・9月17日他月一回 真宗講座『歎異抄』野田風雪師
- 8月19日・9月8日他月一回 聖典学習会『和讃』櫻部 建師
- 8月20日・21日 暁天講座
- 9月20日・26日 秋季彼岸会
- 11月14日・16日 報恩講
- 12月31日深夜 除夜の鐘を門徒の皆様が撞いて頂きます
- 「赤羽御坊」協賛者芳名
- 安城市本龍寺 一色町隆勝寺
- 西尾市上矢田町浄徳寺 吉良町正向寺 一色町明栄寺 西尾市泉攝子 以上初披露分
- 願正寺同行 坂部津多子 正念寺 良宣寺 丸米食品 光明寺 山崎正広 細池町浄徳寺 了願寺 随縁寺 正向寺 唯法寺 以上前回披露分

「赤羽御坊」発行の協賛志を募集しています。

暁天講座
御坊さんのいのち見えてますか?
夏のすがすがしい朝のひととき 自分をみつめる言葉に出逢える公開講演会です

期日 8月20日(木) 21日(金)
時間 早朝 5:30~7:00
法話 上野 諦 師
祖父江文宏 師
会場 赤羽別院 本堂
聴講料 1回 500円 (当日受付どうぞ)

真宗大谷派 赤羽別院 (観音寺)
幡豆郡一色町大字赤羽字上郷中14
TEL(0563)72-2308